

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900133		
法人名	社会福祉法人阿育会		
事業所名	グループホームあんじん		
所在地	千葉県香取市佐原イ1679-1		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛さされていない命は一つもない尊ばれない命は一つもない」この理念を運営やケアサービスを提供する上での拠り所としています。コロナ化の為、デイサービス、家族との面会、外部との交流が出来ない為、施設内での過ごし方やレクリエーション、談話の時間など工夫している。医療連携の充実を図り、入居者様のニーズに応えた生活支援を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の6名の施設で、同じ敷地にデイケアセンターの利用者のお友達との交流も出来ていたが、離れたところからの会話等制限がある。長引くコロナ禍で面会や外出の制限がある中、Wi-Fi等を活用したり、少人数での外出や出前等を活用し、少しでも変化のある生活が出来るよう工夫を職員皆で考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛さされていない命は一つもない。尊ばれない命は一つもない。この理念を共有し、実践につなげている。	あんじんは6名のグループホームで、敷地内にデイケアセンターふだらくも有り、新人研修、合同会議等でも理念の共有が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、事業所としては回覧板での情報の共有のみとさせていただきました。スタッフは挨拶を心がけています。	施設の前は通学路で朝夕は子ども達の声がある。また、道路の前は法人の病院で人の通日も多く挨拶も交わされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通年のご家族様の面会や、運営推進会議など行っていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の為、面会を禁止している為、地域の方やご家族の方には実践できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は事業所内のみで職員同士での情報共有や、意見交換などを行い、事業所の運営に活かしています。	コロナ禍で書面や電話等のやり取りになり、職員同士での情報の共有や意見交換を今まで以上に行い運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者やケアマネが行政への報告、相談を通して連携をとっています。ご家族の希望で認定調査の立ち合いや、申請代行等、協力体制を築いています。	管理者、ケアマネは日頃から市町村担当者と報告や相談等を通じて連携を取り、利用者家族等の相談等を受け、協力体制を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の視点から行動を考えて、危険な行動の原因や不安、苦情など訴えて貰ったり、気付けるよう確認し、共有する。スピーチロックについてもその都度注意しあっています。	身体拘束は行っていない。職員は日頃から禁止の対象となる行為を正しく理解し、本人の視点から行動を考え、危険な行動の原因や不安等気付き確認し、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	生活リズムを整えて、日中に意味のある充実した活動が出来るようにケアしていく。虐待が見過ごされることがないように注意を払う。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で、職員が成年後見人制度について熟知するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族にも十分な説明を行い、改定時には、双方の同意を大前提としています。対話を大切にし、内容の変更の際には個別に柔軟に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声やご家族様のご意見があった場合には、ミーティングで情報を共有、検討し、ご家族様や利用者様に対応するようにしていきます。	利用者や家族からの意見や要望はミーティングで情報の共有し検討、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務希望や休日希望は管理者が聞き、勤務体制に反映させています。	ホーム内の会議や各施設の全体会議等でも職員の意見や提案、利用者の声、思いも計画反映され、職員の勤務や休日の希望も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業状況や意向を把握して、改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は新型コロナウイルスの影響により、外部研修は皆無で、事業所内でのミーティングにて、月に一度実施し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は新型コロナウイルスの為、同業者との交流は図れていません。交流が再開されれば参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	リビングや食堂等、皆さんが居る所にお連れし、早く馴染んで頂き、安心して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、不不安な事に耳を傾け、ご家族様に安心して頂けるよう努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が希望されている支援を検討、他の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けしながら、利用者様の残存能力を見極め、積極的にやって頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きたいときは、一緒にお茶の席などに同席して貰い、一緒に楽しんで頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば、デイサービス等に連れていき、利用して頂く。	同じ敷地内のデイサービスに来ているお友達に会う機会を設けたり、馴染みのお店へ散歩がてら寄ったり、関係が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立する事の無い様、スタッフが工夫する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当される方がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様に日常生活に対する意見を伺いながら工夫し、対応するよう努めている。	本人の希望、家族の意見も聞き、対応できるものから実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様のご協力を得て情報を聞き、共有し、馴染みの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、個人の記録を共有し、引継ぎ時やミーティングで話し合い、理解を深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がより良く暮らす為に、関係者と話し合い、介護計画を作る。	月一回の会議で、本人、家族、関係者と一人ひとりの計画書を見直し、検討と評価され介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を記入、職員間で情報共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新たにオミクロン株の感染防止の為、交流は持っていないが、再開すれば参加してみたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院の為、ご本人様はご家族様とともに、納得されている。適切な医療を受けられるよう医療と連携。	主治医系列の内科病院で、他の病院対応も行っている。他の医療機関とも連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4日程度、看護師訪問があり、系列医院より週に1回看護師が夜勤に来ている為、相談出来、その都度支持をもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、情報提供者を電話にて病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携を図りながら、ご家族様の意向を伺い、ご家族様とともに、ご本人様の心に寄り添える様にしている。	研修は行っている。医療との連携も図り本人や家族の意向を伺いながら、本人の心に寄り添えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師指示のもと、指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応として、警察・消防署に即時に協力依頼できるようにしている。昼夜を想定した訓練を行い、避難の確認をしている。	避難訓練は消防の方、指導のもと実施されている。緊急時の対応として、警察、消防に即時に対応依頼が出来る様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については、所定の場所に保管している。日常的にも入居者様のプライバシーに配慮し、相互の信頼関係を大切にしている。	外部研修はコロナ禍でできないが内部研修は行われ、個人の書類等も所定の場所に保管され、個人情報やプライバシーに配慮し、声かけなど気配りし、相互の信頼関係を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明をし、分かりやすく話している。ご本人様の表情、行動から気持ちを受け止めることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいかなどの希望を聞き、ご希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの支度を手伝ったり、定期的に美容師さんに来てもらい、ヘアカットなどしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気づくりに努めている。食べたいものを伺い、盛り付けに工夫をしている。	コロナかで外食等が出来ない中、食事は明るく楽しい雰囲気づくりや盛り付け等工夫し、誕生会には好きなメニューや季節や行事食も用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タンパク質を中心に多めに摂ってもらう。おやつ時に、水分を多めに摂れるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夜は、歯磨きやうがいの声掛けを行っている。夜間は入れ歯を洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の行動パターンを把握し、誘導し、自立支援をしている。	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録し、把握している。ご本人様の希望により、乳飲料等を飲む方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。ご本人様のタイミングを見て声掛けし、入浴を楽しんで頂いている。	入浴は毎日実施され、本人のタイミングを見て声かけ、入浴を楽しんでいただいている。また、季節(ゆず湯・菖蒲湯・バラ湯)等の入浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の意思による行動・言葉・様子などで横になったり、ソファでくつろいで頂いている。夜間は安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬説明書を確認し、内容を把握しておく。薬が変わった時は、効果・副作用について注意する。症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出をしなくても楽しめるように、季節の行事、誕生会も企画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はできないが、出かけられるようになれば、遠足等を企画したい。	長引くコロナ禍で、遠足や外食等が定期的に行われたのが、できなくなっているが、出前やテイクアウト等を利用する工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週定期的に購入している飲み物など、支払をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で、いつでも電話をできるようにしている。耳の遠い方は、隣にいてサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時や、誕生会の写真が壁に貼っており、ご利用者様同士楽しんでいる。	6名と少ない人数でアットホームな雰囲気です、誕生会や外出時の写真等が壁に貼っており、行事の飾りや季節の花等も飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が気軽に話をしたり、生活できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを設置したり、使い慣れた品物を置いたり、写真を貼ったりしている。	家族と相談して家族の写真や思い出の品物、居室にもテレビが設置され、一人の時間を楽しめるよう支援されている。コロナ禍で中々面会等が出来ない中、テレビの配線を活用しWi-Fiで家族とのやり取りができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレの場所がわからない方には、誘導させて頂いたり、歩行の安全を見守る。		